

PTA 研修便り 第6号

平成31年3月8日 発行

平成31年1月25日(金)、PTA研修会「先輩保護者のお話を聴く会」をおこないました。当日は22名の在校生の保護者と、卒業生の保護者が多数応援で参加していただきました。

講師の皆様、応援の皆様、どうもありがとうございました。

講演の概要

—講師の紹介—

8期生保護者 小川 恭子 様
8・9期生保護者 岡本 弘美 様
10期生保護者 高橋 孝子 様



—お話の内容—

たまがわの卒業生であるお子さんが就労されて三年目・一年目の保護者の方々のお話を伺いました。

実際に就労されると、朝早すぎる出勤時間・仕事内容が本人に納得できない・言葉での指示が充分理解できない・上司の叱責に配慮が無いように思う(本人)・通勤ラッシュで疲れる・分からないことを聞きに行く回数が多いと言われる・漢字を読むのが苦手なので困っている・社会保険関係の話や職場でのこまごましたことなど本人が把握できるかどうか分からないなどの困難があり、その結果ストレスが溜まって家で暴れる・仕事をやめたいと言う、などの状況がありました。対処・解決方法としては、就ポツさん(就業・生活支援センター)に間に入ってもらい会社と話し合う・日常的に家でじっくり話を聞くようにしている・余暇活動(趣味の時間・友達と遊ぶ・大好きなスポーツを続ける)がしんどいことがあっても我慢して仕事を続けるモチベーションになっているので応援する、などをしっかりと実践されていました。

また質疑応答では、就ポツさんとの付き合い方、地震や台風など自然災害時の対処、二十歳での障がい年金取得についてなどとともに、卒業後の親同士の情報交換や情報収集が大切なことを教えていただきました。

以下に質疑応答の内容を、簡単にではありますが挙げさせていただきます。

—質疑応答—

Q 就ポツさんとは何ですか？

A 就業・生活支援センターのこと。卒業してから就労に関する相談をするところで、地域ごとにある。本人・保護者と会社との仲立ちをしてくれる。三年生の夏休みに地域ごとの就ポツさんが学校に来てくれて懇談があり、今後の流れなどを説明してくれる。たまがわ生は全員登録する。

Q 屋外の清掃の仕事は夏場のゴミの臭いがきつくてたいへんと聞きますが、どの程度でしょうか？

A たしかにゴミの臭いはあるが、どの程度気になるかは個人差があると思う。自分が汗をかいた時の体臭の対策としては、仕事着に似た服を用意して着替えさせている。

Q 休憩時間を過ごすのが苦手という話を聞きますが、どのように過ごしていますか？

A 職場により様々。特に困っているという話は聞いていない。交代制なのでひとりで過ごすことが多い・食事をとりスマホを見たりしている・時間が長くないのであつという間・立ち仕事なので座りたい・事務なので一斉に休憩をとる、など。

Q 同僚との横の関わりはありますか？

A 個々の仕事なので同僚という感じはない・少人数のチームなので同期はいない・仕事の後ベテランの人が声をかけてくれたりするが、自分から世間話をする事はない・月に一回同僚と食事に行く機会を会社がつくっているので参加している・おみやげ等は上司が分配する・帰りが一緒になる人とはしゃべっている。

Q 同僚の理解度は？

A 特例部門なのでいろいろな障がいのある人がいる。上司は健常だが理解できていないところはある・障がい者雇用だが、それを全ての人が知っているかは疑問。身近な人は知っている・叱り方に配慮がある・個々の仕事なので上司しか把握していないが、会社は障がい者雇用が初めてなので一生懸命やってくれている・就労に際しての障がいの理解は、相手に求めるだけでなく、本人が自分のことをどこまで理解できているか、自分のことをどれだけ分かりやすい言葉で説明できるかを求められるようになってきている。

Q 先日実習中に地震があったが、通勤時に災害があったらどう対応させますか？

A 電話はつながらないかもしれないので、一番に親に LINE をさせる・位置確認ができるよう電源を入れっぱなしにしておく・ヘルプカードを携帯し、いざという時見せられるようにする。

<ヘルプカード> 障がいのある人などが災害時や緊急時、日常生活の中で困った時に、必要な支援や配慮をお願いしやすくするもの。運転免許証サイズで、氏名・住所・生年月日・血液型・性別・緊急連絡先・病気や障がいの情報・通院先・学校・アレルギー・服薬の有無・手伝ってほしいことなどを記載して携帯する。タグタイプのヘルプマークもある。配布場所は自治体によってちがう。

Q 就労までに身につけておいた方がいいことは？

A 挨拶・10分前行動・漢字が読めること：書けなくても読めることが大事。会社の人の名札が読める。知らない駅に着いた時に駅名地名が読める（ローマ字も）。読めないと困ることがあるので学べるうちに学んでおく。

Q 就ポツさんとのやりとりにタイムラグはないですか？

A 就ポツさんには自分から相談していくほうがいい。普段から気付いた事はメモをとっておき、さかのぼって細かいことも伝えていけるようにしておく。その度に言うほどの事でないこともメモに書いておき、面談時に伝えるようにしている。子どもとは日常的に話し合える環境をキープしておく。

Q 卒業後の療育手帳の更新・障がい年金の申請について教えてください。

A 自治体によって手続きがちがう。二十歳の誕生日前に年金の申請をしなければならないので、手帳の更新時に年金のことも聞いておいた方がいい。病院の診断書が必要だし、親が申し立てを書かなければならないので、勉強会や講習会もある。難しいので親同士で情報交換する方が分かりやすいかも。卒業して二十歳まではあつという間なので頑張ってください。

*たまがわ会会長 市来さまより

現在たまがわ会には1期から13期まで約500名の会員がいて、いろいろな職業についているお子さんがおられます。特性もさまざまなので、お話をさせていただいたことが少しでも在校生の皆さまに当てはまり参考になればと思います、今後もこのような交流を続けていきたいと思っております。このような機会にはぜひ出席していただいて、普通の雑談のようにいろいろお話をし、何でも聞いていただければ嬉しいです。また、たまがわフェスティバルにブースを出させていただいているので気軽に声をかけてください。

みなさんの感想

◆いろいろな仕事で困った事を具体的に聞く事ができてよかった。自分の子どもにもあてはまる内容だった。これからも母親として一緒に考えてサポートしていくうえで、いいお話が聴けた。

◆「ヘルプカード」を知らなかった。利用したい。漢字レベルは早速6年生まで読めるように勉強していこうと思った。

◆就業・生活支援センターやヘルプカード等を利用して、周りに知ってもらうこと、本人・保護者が相談できる場所作りが大切だとわかった。本人が自分のことをどれくらい理解できているか、困っていることを伝えられるか、今後のために本人にも話しておきたい。

◆仕事内容や給料などを知ることができてよかった。

◆卒業後、我が子より少し先を歩んでおられる子どもさん、親御さんの生のお話は、うんうんとうなずけることから、なるほどと思うこともたくさんあり、ダイレクトに心に響くものでした。

◆「わかっているようでわかっていない」「漢字は小学校程度は理解しておいてほしい」「就職してからがスタート」とても参考になりました。漢検は受けさせておいたほうが良いなと改めて思いました。

◆就職してからの困りごとや事業者からの要望など聴くことができて良かったです。

◆災害時に公共交通機関が止まったときなど困ったときの対応が難しく、本人も親も普段から考えておかないといけない。また、仕事で困ったことなどを話せる環境や状況を作っておくことも必要だと思いました。仕事を続けていけるようモチベーションを保つように、声かけや趣味ややりたいことを見つけるのも大切だと思いました。

◆仕事以外にも、日々の状態や友達とのこと、恋愛や結婚などのことも知りたいです。親が亡くなってからのことをどのように教えているか、なども知りたいです。

◆親ができることをやっけていこうと思います。

◆「働くとは」というお話を聴いて、不安な思いが少し小さくなるように思います。

◆本人にしんどいことがあっても就労を継続できている、ということに安心しました。

◆就職するまでもたいへんなことがあります、実際に社会に出るとなるとまた新たな課題があって、丁寧な説明や言い聞かせは続けていかないといけない、と感じました。

◆◆◆みなさんどうもありがとうございました◆◆◆